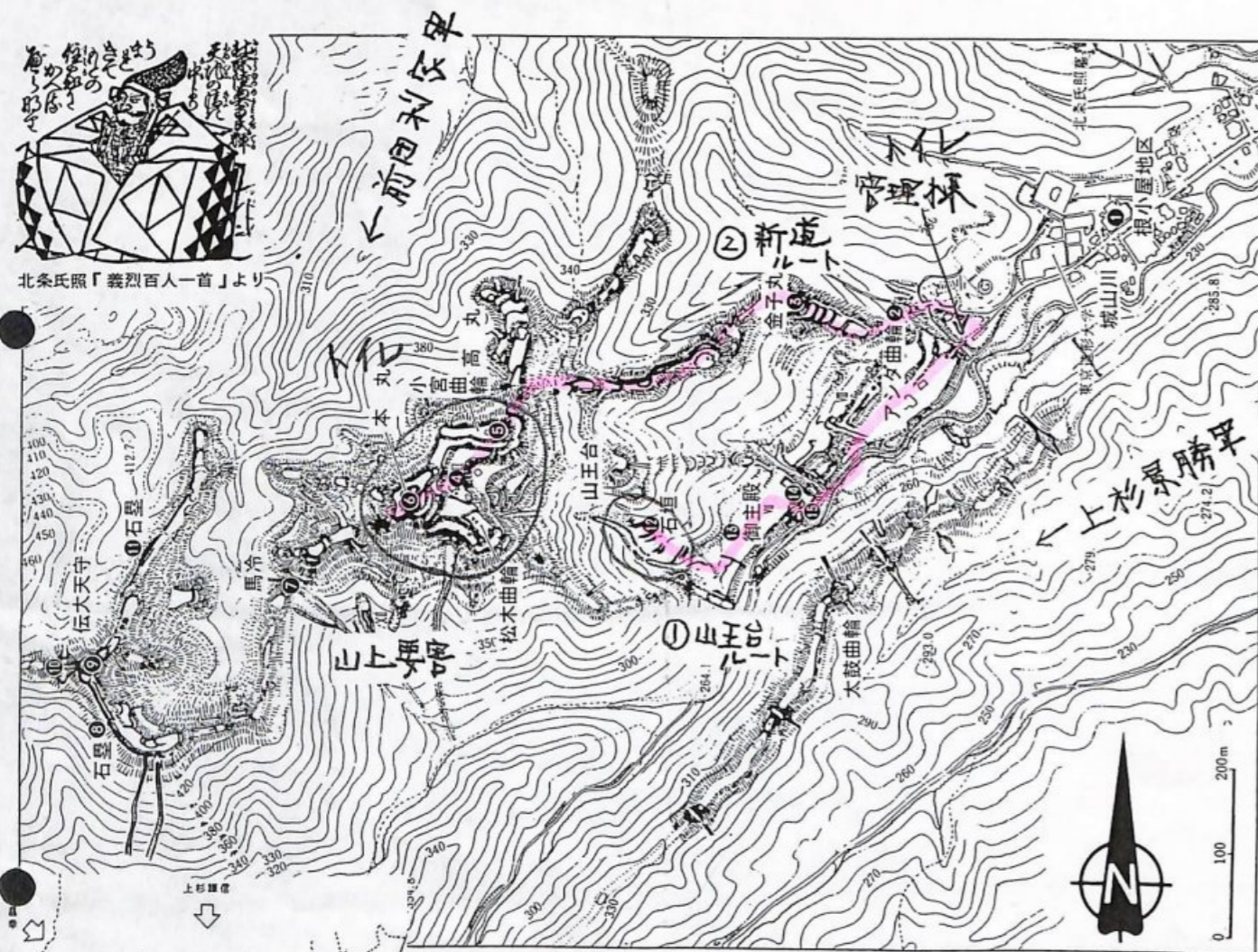


資料②八王子城本丸を歩く かなり急勾配→元気組と挑戦

比高110m、戦国期の遺構を色濃く残す 国指定史跡「八王子城」



石垣

本丸跡

北条氏照肉保地図



小石曲輪からの眺望

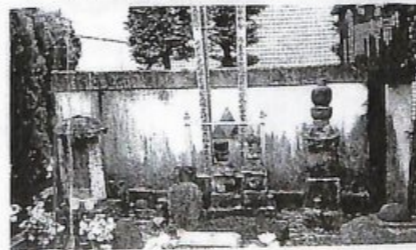


山上要客の八王子神社

小田原駅前氏照の墓



小田原駅前氏照の墓

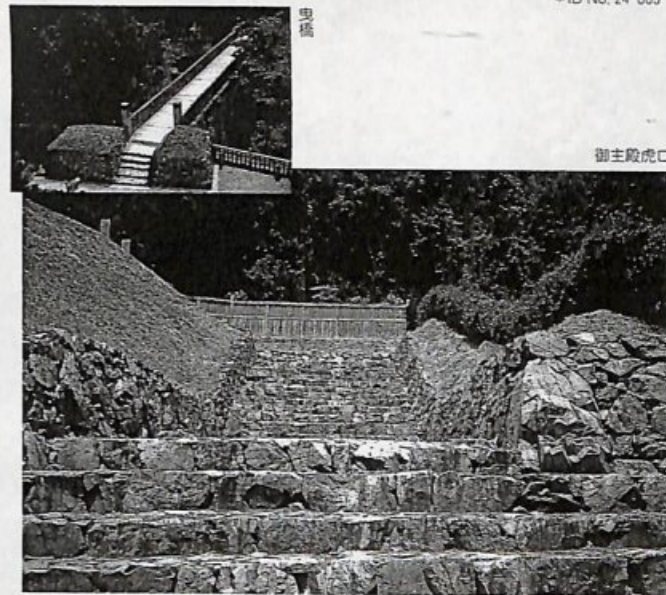


～国指定史跡～

八王子城跡

(指定: 昭26.6.9 追加指定: 昭54.11.26, 昭58.3.28, 昭61.1.31 平17.7.14)

八王子城は、関東山地の東端部に立地し、北浅川と城山川に扶まれ、独立峰の地形をなす深沢山が、城の主要部分です。本城は、北条氏康の次男氏照晩年の居城といわれ、築城は天正10年(1582)前後から本格的に進められました。築城途中の天正12年から15年(1584~87)までに氏照は澗山城から移転してきたようです。天正18年(1590)6月23日に豊臣秀吉の関東制圧の一環として前田利家・上杉景勝らの軍勢によって改められ、未完成のうちに落城したといわれます。標高460mの山頂部が主郭で、両側の崖際に井戸があります。そして、多くの曲輪、堀切、櫓台などの跡が見られます。氏照の居館跡と見られる御主殿跡は、南北40m、東西90mの土塁に囲まれた扇形地で、東北隅は扇形の虎口となり奥庭跡に下ります。城下には家臣団等の屋敷跡が見られます。城郭が平城化する時期に、丘山城の澗山城から山城の八王子城に移るといふこと、しかも、大城郭を構想していたらしい氏照の意図は謎です。近年に石垣、虎口、奥庭などが修復、整備されています。また、平成18年3月には、「日本100名城」に認定されました。



所在地/八王子市元八王子町3丁目・下巻方町・西寺方町
交通/JR・京王線「高尾」駅北口からバス「霊園前」下車徒歩20分

前田利家、上杉景勝に落とされた悲劇の名城

北条氏照と八王子城主要年表

- 天文10年ころ 氏照、小田原北条氏康2男に誕生、嫡子は氏政
- " 21年1552 氏康武蔵野一帯の領有に成功、氏照を守護代大石氏養子とし関東進出を狙う、氏照澗山城を居城とする
- 天正12年ころ 八王子城築城、移転
- " 16年1588 豊臣秀吉来襲に備えて大改修(未完成のまま終わる)
- " 18年1590 豊臣秀吉小田原攻め
- 前年11月24日秀吉宣戦布告、12月10日作戦会議、兵糧米を輸送、18年2月1日先鋒家康出動、5日~2陣以降出動、10日上杉景勝出陣、3月1日秀吉出陣、4月3日小田原城完全包囲、6月23日八王子城落城、26日石垣山城完成、7月6日小田原城陥落、氏康、氏照自害
- 氏照は家中随一の戦巧者で、徹底抗戦を主張して竹浦口を守った
- " 18年1590 関東に転封した家康が八王子城を廃止、跡地は江戸時代を通じ幕府直轄領、忌地として放置された
- 昭和60年~平成5年主殿周辺を発掘調査、整備、一部復元

八王子城山上要害(詰めの城=本丸、大天守周辺)の見どころ

- ①自然の地形を巧みに利用しつつ尾根を堀切り、縦堀を巡らせ、急斜面に腰郭と石垣を連続させて防御体制を固めている。
- ②登城路の山王台ルートは石垣群が連続し、石切り場も現存している。
- ③大天守は総石垣、崩壊した石垣が累々と続く。(見学しません)
- ④関東における当時最大の石垣山城、その縄張りは「安土城」をモデルに新しい山城作りをめざしている。
- ⑤築城およそ4年未完成のまま、天正18年の秀吉「小田原攻略」で落城、戦国期の面影をほとんど手つかずに現存している。

北条氏照が織田信長の「安土城」をモデルにした関東最大の石垣積み山城

(当時)

「日本9名城100選」認定

八王子城本丸を歩く

西北次石垣群
全千段

1) 急崖道に石垣群と石切り場が潜む — (山王台ルート) (入り口付近だけ登る)

- ①山王台ルートは御主殿背後の細い沢伝いに登城口がある。
- (1)このルートは通常の案内書には記載されていない。地元ガイドによると危険なため正式には認められていないとのことであった
- (2)下見時はこのルートに登り新道から降りた。急勾配で一部危険箇所があり、本番では入り口付近だけとした。物足りない方は改めてチャレンジしてください
- ②多少整備された登り口から5分ほど登ると、半分草や土に埋もれた最初の石垣群に出る。平べたい粘板岩を高さ2~3m、幅10mほどに積み上げ、上の小さな腰郭を囲んでいる。登ってくる敵兵を腰曲輪から槍で突いたり投石したものだろう。
- ③石積みの根石を「あご石」といい、野づら積み(割り石積み)、うらごめ石。コーナーは算木組とはいえず、初期の石積み技術といえる。
- (1)できれば2~3段目まで登りたいが、当日の天候と時間で判断
- ③石材は自前、3段目近くに最初の石切り場がある。全山が石山で所々に露出している。石は割るとタイルのように剥がれる。叩いて適当な長さに切断したものだろう。石切り場の跡もそのまま石垣として利用している。
- (1)輸送しやすいサイズに切断して下方の石垣に使用
- ④適当な高さまで登って引き返す。

2) 大規模な戦闘が繰り広げられた尾根道 — 新道ルートで山上要害めざす

- ①改めて安全、安心、かつ実際に戦闘が行われた新道ルートに登る。途中所々に小規模な石積み遺構(現代積みもある)が散見、石切り跡は?
- ②登城橋、山上口から本丸をめざす。
- ③およそ10分、馬蹄型台がひな壇状に並ぶ尾根進んで金子丸へ。金子家重が守備した。金子丸南側の梅林は大規模な戦闘地跡で、鎧や刀、槍、鉄砲玉などが採取されている。
- ④伝柵門跡=馬廻り道(帯曲輪=武者走り)が集結する山腹の要衝。
- (1)柵門から山王台に抜ける馬廻り道は途中滑落のため通行止め
- ⑤小宮曲輪=一庵曲輪とも3の丸とも。狩野一庵が守り上杉景勝が落としたとされる。
- ⑥眼下に八王子市内、遠く東京湾、房総半島が望む。一息ついて大パノラマを満喫。
- ⑦中の曲輪、八王子神社=「八王子」地名の由来となった神社、社伝は1100年前の創建とする。八王子城主郭群の中心地にあたる。
- ⑧松木曲輪=2の丸ともいう。中山家範が守り、前田利家が落としたとされる。展望台で大休息、ここからの眺望は抜群。

⑨伝本丸跡=狭い最高所の曲輪、本丸というより物見台か。

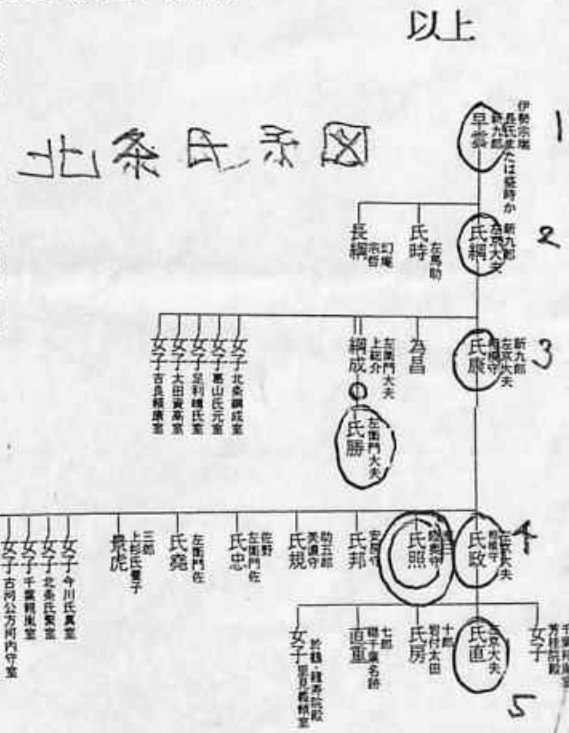
- (1)本丸周辺に石垣はほとんどなく未完成に終わっている
- ⑩時間許せば30分ほどの大休止を利用して元気者だけで馬冷(こまひやし)へ
- (1)井戸跡
- (2)案内看板「高尾陣馬縦走路」どおりにおよそ10分余で馬冷へ
- ⑪馬冷=大天守と本丸を仕切る大堀切
- (1)この先に大天守があり、崩れた総石垣や投石がみられるが今回はここまで
- (2)大天守はからめ手の防御本拠か、天守が構築されることはなかった
- ⑫往路と同じ「新道」を降りる。山上要害に登らなかったみなさんと合流する。

3) バス停への帰路に — 八王子駅で解散

- ①北条氏照と中山家範ら家臣の墓(どうしてもという方はどうぞ) = 城主の氏照は天正18年7月11日、兄北条氏政とともに切腹した。本墓は小田原駅前(本会で案内済み)にある。没後100年に家範の子孫で水戸藩家老となった信治が建立、墓下の谷津は宗関寺の旧地で氏照の首級を埋葬したともいう。
- ②宗関寺(素通り) = 文禄元年(1592)北条氏照の冥福を祈って開基。寺名は氏照の法号宗関大居士から。銅造梵鐘は100回忌供養に中山信治が寄進している。
- ③霊園前からバス乗車、5分間隔ほど。180円。八王子駅着、解散

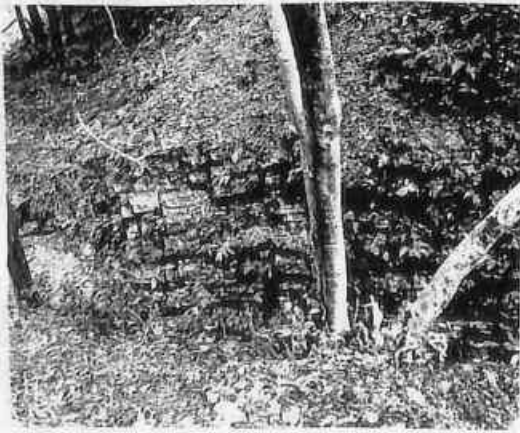


↑八王子城
ほうじょううらうじてる 北條氏照 ほうじょううらうじてる
一五四〇—一九〇 安土桃山時代の武将。氏照の次男。氏政の弟。母は今川氏親の女。武蔵滝山の八王子城に住み、下野の榎本・小山、下総の古河・栗橋の諸城を併有し、一五六九(永禄二)年甲斐の武田信玄の大軍の来襲にあたっては防戦に努め、武功をあらわした。一五九〇(天正一八)年の小田原の役にあっては、小田原に籠城して竹浦口を守ったが、居城八王子は横地・狩野らの家臣に委ねたところ、上杉景勝・前田利家の軍一万五千に攻められて陥落した。氏照自身は降伏のち、兄氏政と共に責を負うて、小田原城下の医師田村安柄の宅にて自決した。現在小田原駅前の土地に五輪塔があり、墓所と称するが、八王子の宗関寺に葬られたともいわれている。(引用は久生)



⑮ 八王子城跡
市内元八王子、高尾駅からバス
連絡本線下車30分
〒253-9057 76° E139°15'25.43"

高尾駅の北西約三・の城山に残る山城の遺構。国の指定史跡になっている。
城は永禄元年(1592)の初め、上杉景勝が城主北条氏照により、その支城として築かれたのが起源という。
天正一八年(1590)、豊臣秀吉の小田原攻めが始まると、氏照は小田原に籠城。城主不在の八王子城は、豊臣方の前田利家・上杉景勝の連合軍一万五〇〇の包囲攻撃を受けた。城を守る北条勢は、重臣の中山勘解由家範・横地監物らを主将とする一〇〇余名。六月二三日の戦闘で城は落ちたが、壮烈な最期を上げた中山家範らのすさまじい戦いぶりは、奇手の大将前田利家を瞠目させたという。
城の規模を知る史料として、慶安元年(1648)に描かれた「八王子城古図」が現存し、今も東西約一・五、南北〇・七四、周囲二・八、余りにわたって一四の郭跡が数えられる。南東麓の御殿谷川の左岸上方に、土塁で囲まれた御主殿跡が残り、南西方には落城の際、城中の婦女が身を投じて果てたという御主殿の滝がある。
東麓の東原造形大塚の跡から頂上の本丸跡までいたるところに土塁・堀切・石垣が残り、現在休憩所のわく通称「アングラ郭」の付近からは、鉄砲弾・什器・金具・天目茶碗・古銭・焼米なども出土した。
頂上の、八王子神社裏手の高台が本丸跡で、神社南側に松木郭(二の丸)、北東に小宮郭(三の丸)跡が残っている。松木郭には城跡碑や展望台、慶安の古城図を模写した案内板があり、当時の城構えを知ることができる。
付近には八王子城の支城である浄福寺城跡と小田原城跡がある。



山王台ルート石切り場 石垣群

天候かどと大巾のコースも変更する場合があります

秀吉の来襲に備えた堅固な山上の曲輪